

二〇一六年二月一六日(参加者一四名)

| | |
|-----------------|-----|
| 春光の照り翳りなす小川かな | わかば |
| 梅が枝に透きて青空広これり | わかば |
| 青空へ突き上ぐるごと辛夷の芽 | わかば |
| 玄室の羨道しるき梅の影 | わかば |
| 梅の香に包まれのぼる丘の道 | わかば |
| 室町の涅槃絵に見る古びかな | わかば |
| 奈落より梅が香通ふ丘の上 | せいじ |
| 福火てふ焚き火に両手かざしけり | せいじ |
| 春風に香煙渦を解きけり | せいじ |
| 漁網めく万朶に梅の蕾みけり | せいじ |
| 大方は婆が椅子占め大根焚 | うつぎ |
| 大いなる櫓惜しみなく福火焚く | うつぎ |
| 味噌の香に法話もそぞろ大根焚 | うつぎ |
| 大根焚オールの如き大杓文字 | うつぎ |
| 観音へおばしま伝ひ花あしび | 菜々 |
| あたたかや供花に囲まれ水子仏 | 菜々 |

梅東風に紫衣ひるがへし上堂へ

菜々

大根焚食べて極楽ゆけるとは

よし子

香煙をうち攪ひたる涅槃西風

よし子

涅槃会や風を袂に若き僧

よう子

春光を四方に弾きて九輪塔

よう子

寺隅にもてなしのごと福火焚く

有香

閻王と眼の合ひてより足すくむ

有香

善男女福火をかこむ梅日和

明日香

鳥瞰に神戸の街や梅の丘

明日香

福火より離れられずや東風の寺

満天

供花はみな春の色なる水子仏

宏虎

急磴に蒼天仰ぐ梅の園

ぼんこ

一と皿で満腹となる大根焚

ひかり

定例会の選

二〇一六年二月一六日(参加者一三名)